



幸樹

こう じゅ

第59号

2020年2月1日



ホームページ



職員募集

発行・一般社団法人幸樹会「幸樹」編集委員会

……………幸樹会事業所……………

からたち薬局・介護ショップからたち ☎047-710-2785

あんず訪問看護ステーション ☎047-701-5559

あんず居宅介護支援事業所 ☎047-701-5558

ケアステーションゆず ☎047-701-5506

看護小規模多機能型居宅介護さんしょう ☎047-710-0331

幸樹会本部 ☎047-701-7550

〒270-2254 千葉県松戸市河原塚 411-1 幸樹会館



絵・井上 忠司

愛知県生れ。文化学院デザイン科卒業後、グラフィックデザインの世界へ。食品関係・洗剤関係の仕事を経てパッケージのアートディレクター（AD）になる。リタイア後に趣味で始めたバードウォッチングの魅力に夢中になり、10年間鳥の絵を描いてきました。さんしょうのご利用者です。

第25回地域交流カフェ 2月18日(火)

餅つき大会 11:00～、幸樹会館1階ピロティ

食事会 12:00～、さんしょうリビング

♪ミニコンサート♪ 12:50～

かわぞえたかひろ

川添貴弘さん (テノール)

やじまふぶき

& 矢島吹渉樹さん (ピアノ)

*川添さんは三和病院皮膚科医師です

《どなたでも参加自由》



はる
佐藤春陽くんのお母さんお父さんにお聞きしました

思いやりのあるホトやもりに成長してほしい



佐藤春陽（はる）くん

春陽（はる）くんは、表情豊かでやんちゃ、自己主張もはっきりする可愛らしいもうすぐ4歳になる男の子です。2016年3月13日に生まれましたが、約3年半ずっと新生児集中治療室（NICU）・小児科病棟と入院生活を送ってきました。昨年10月に退院し自宅での生活がはじまりました。私たちは昨年度は毎日、今年度は週3回、入浴介助・成長発達相談等を目的に訪問看護でお伺いしています。お母さんの真梨子さんとお父さんの昌平さんにお話を伺いました。（聞き手・板垣信子）

「毎日、あんずの訪問看護師さんが来てくれているので、ずっと長い間の関わりのような感じがありますが、まだ、3か月ちょっとしかたっていないんですね」と真梨子さんが笑います。春陽くんの退院以来、濃密な時間が流れているからでしょうか。

「生まれてからずっと入院生活をしていて、自宅という生活環境を春陽が知らないので場所慣れすることが出来るか、自宅での生活リズムができるのか、緊急時の対応をどうしたらよいか」と真梨子さんは心配や不安があったと言います。

お父さんの昌平さんは、「生まれる前から男の子と知っていたので、早く三人での生活を望んでいた。不安より、うれしい気持ちのほうが大きかった」と話します。

春陽くんは、あんず畑の芋ほりに参加したり、「子育てひろばほわほわ」の医療的ケア児の広場に参加し、自宅だけの生活だけではなく、外出の機会もあり、落ち着いた生活ができてきています。

気切をしていて呼吸器を装着しているので、成長・発達や学校などについての将来の心配はありますが、「これから、春陽自身がある程度、自分で服を着たり、食事が自分でできる等の日常生活が一人できるようになってくれたらと思っています。今は、自己中心的でまだまだ幼い春陽ですが、成長とともに協調性があり思いやりのある子に育ててほしいです。

これから、成長に伴っていろいろ困った事や心配などがたくさん出てくると思いますが、今から色々と考えずに春陽とゆっくりと向き合っていけたらと思っています」とお母さん・お父さんは語っています。

春陽くんは、現在、小児在宅診療や訪問歯科、訪問リハビリテーションなどの在宅サポートを受けています。以前なら、在宅生活をおくることは困難であった医療的ケア児が、在宅ケアが充実して、在宅で生活することが可能になってきました。医療的ケア児・者と家族を支援しようと、松戸市では（医）はるたか会が中心になって、「医療的ケア児・者のレスパイト施設をつくる会」のとりくみが進んでおり、私たちもそれに協力しています。

お正月、あれこれ

熊野神社へ初詣



1月2日、さんしょうの利用者の方々と熊野神社に初詣へ行ってきました。

新しい1年の始まりに、皆さんそれぞれ期待をこめてお祈りしてきました。天気も良く、素晴らしい時間でした。利用者の皆さんも笑顔で参加され、「楽しかった」との感想もいただきました。（中村佐智）

初めての新年会、書初めも

1月6日、地域交流カフェに日程が合わないために参加出来なかった利用者さんにも楽しんで頂ける機会を持っていただこうと、新年会を開きました。新年会は初めての試みです。



鍋と利用者さんからリクエストされたステーキの昼食の後、あんず居宅とゆずの職員によるマジックショーがあり、皆さんと一緒に福笑い大会をしました。たくさん笑って、楽しい一年の始まりとなりました。来年も是非開催したいと思います。

当日、午後

は武本敦志くんファミリーも参加して書初め大会



が開かれました。

(原 伸子)

「地震だ！」避難訓練

1月23日 地震を想定した避難訓練を行いました。緊急地震速報（訓練用）を流すと、さんしょうのリビングにいた利用者の皆さんは、近くにあった上着やひざ掛けなどで、頭を守ります。ガラスが割れる危険のある窓の側や、倒れやすい家具のそばからは離れ、中央のテーブルに集まってお過ごし、しばらく揺れがおさまるのを待ちます。利用者の皆さんは職員の誘導に落ち着いて行動してくれました。



余震も収まり、歩けない方を担架で1階に下ろす訓練です。職員が降ろされる役、降ろす役をやってみます。どうすれば、安全に不安にさせずにできるか、意見が飛び交います。何度かやるうちに、上手になってきました。

訪問先の利用者さんの様子も管理者のところに情報が集中します。火災の時のことも考え、消火器の訓

練も行いました。災害はいつ起こるかわかりません。日頃からの訓練が大事だと感じた一日でした。

看護師

の

こころ

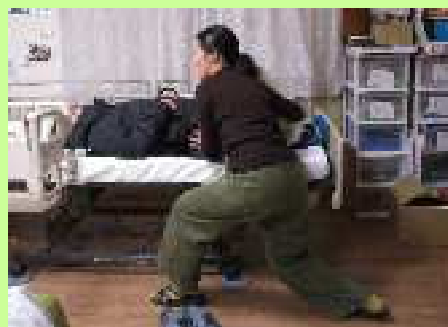
あんず訪問看護ステーション主任・村里 恵

「ノーリフトケア」の研修を受けてきました。「ノーリフトケア」は、オーストラリア看護連盟が看護師の腰痛予防対策のために1998年頃から提言したもので、危険や苦痛の伴う人力のみの移乗を禁止し、患者さんの自立度を考慮した福祉用具使用による移乗介護を義務付けたもので、国際的に同じようなとりくみが広がっています。

積極的に道具を使い、介護する側、介護される側の負担を軽減し、お互いに楽に介護ができるというものです。床に落ちたものを拾うところから、腰に負担の無い体の使い方を考えながら学びました。椅子を運ぶ動作で、より楽に運ぶにはどうすればいいか、実際に動いて運び方を考えました。色々な考え方があって興味深かったですが、基本は腕は体幹からなるべく離れない方が良く、前かがみにならない、重心は身体に近い所にある方が良くということです。

「ノーリフトケア」を広げたい

基本的な体の使い方を学んだ後は、椅子の座りなおし、スライディングシートを使ってベッド上での移動や起居動作の介助の仕方を学びま



した。持ち上げたり、つかんだりする事で、一点に力が加わると痛みが生じて、それから体が緊張して硬縮につながることもあるそうです。ひねる動作も、続けていると体の歪みにつながるそうです。スライディングシートを上手く使う事で、とても軽い力で、要介護者を動かすことが出来ました。リフトや方向転換機などの機械も使わせてもらい体験してきました。とても勉強になりました。

勉強会の中では、参加者の皆さんとたくさんお話できて、いろいろな現場の声が聴けたのも良かったです。参加者でシートを使っている人は多かったのですが、使い慣れないと、今まで通りの力に頼る介護になっている現状もあるようです。

利用者にも介護者にもメリットのあるノーリフトケアを幸樹会でも広めていきたいと、伝達研修をはじめました。



デンマーク便り...⑫

ラスムッセン 京子

デンマークでは、一般医療の新しいとりくみをめざして、公立病院と一般開業医の新しい協力指針交渉が始まります。医療改革のために、病院は一般医をより広範囲にサポートする必要があるとするなどの「一般診療のビジョン2030」にもとづく、公立病院の院長会と一般開業医組合との、新しい協力体制の合意をめざす交渉です。2021年1月1日から有効になるもので、2030年まで次の10年間の協力方針の合意づくりです。

一般医療の新たな改革

両当事者は、ビジョンの一般的な慣行については、合意しています。



「一般診療のビジョン2030」

2030年までに、各慢性疾患に

関する治療指針が行き渡りその治療管理の品質が向上し、より均一になり、データの共有されることが方針に組み込まれています。

開業医と病院の関係にも変化が起こることに成ります。つまり、一般医は、今日よりもはるかに大きな範囲で、患者がヘルスケア上で複数の病院や訓練院等に通院する必要がある場合、患者のコーディネーターでなければならないことを意味します。病院は、現在よりも一般開業医診療をサポートをする必要があります。その要請については時期など融通を図る必要があります。また、慢性疾患患者の管理の大部分を受け持つ一般開業医の実務が増えることも予想されます。

病院での患者の診断検査は、一般開業医が必要と認めれば、患者を関連の内科などの外来へ紹介する必要は以前に比べ無くなり、一般開業医が直接検査を要求できるようになります。ビジョンでは、一般開業医はヘルスケアシステム全体の不可欠な部分として、病院専門医と一般開業医とのコミュニケーションが容易になるようを促しています。

一般開業医の実務も増えますが、CTの読影などの

要請も増えることが見込まれるので、私のような放射線科医の仕事も増えそうです。

新入職員の紹介

作業療法士 周藤 俊彦 (しゅうとう としひこ)

この度、幸樹会で勤務させて頂くことになりました。ご存じ無い方も多いと思いますが、作業療法士とはリハビリテーションの専門職です。あんず訪問看護ステーション、看多機さんしょう、介護ショップからたちなどで、横断的に働く予定です。



私はこれまで、主に脳神経疾患や整形疾患等を対象として、リハビリテーション病院に勤務をしていました。以前より地域での活動に興味があり、この度地域リハビリテーションの分野に転身しました。実際に幸樹会で通いや訪問リハビリサービスで利用者の方々と関わり、心身の不自由さがありながらも、懸命にいきいきと生活されている方が多くみられることに驚きを覚えました。今後の役割として、機能回復のためのリハビリのみならず、日常の不自由さの解消から、皆様が少しでも満足のいく生活が送れるよう、全力を尽くしていきたいと思っています。

ご家族の方へ、介護のことでお困りのことがありましたら、介助方法や福祉用具のご提案も行わせて頂きたいと思っておりますので、お気軽に相談下さい。

八柱学習会

● 前回報告 1月17日 (金) 助言者 武井幸穂氏

● 1月17日 (金)、18:30~

在宅看護学会演題「医療的ケア児の訪問看護」報告
あんず訪問看護ステーション看護師・大橋麻子

参加者 20名。日本在宅看護学術集会演題をあらためて報告。積極的なとりくみの評価と医療的ケア児と家族の支援を充実させていくことの重要性を理解。

▼ 次回学習会予定 (「定例日：毎月第3金曜日」)

● 2月21日 (金)、18:30~

NHKスペシャル「大往生~わが家で迎える最期」を視る

場所：幸樹会館2階会議室《参加自由》

今月の屋上太陽光発電量は、

761KWh

幸樹会館電力使用量 6530KWh 自給率 11.65%



職員募集！非営利働きたいある職場 看護師・介護職員

● 無資格の方もご相談を。資格取得支援制度あり
問い合わせ：本部中野まで、☎047-701-7550